

令和6年5月9日

## 令和6年度 波佐見町立南小学校 学校経営方針 ～明日も行きたくなる学校～

校長 馬場 利浩

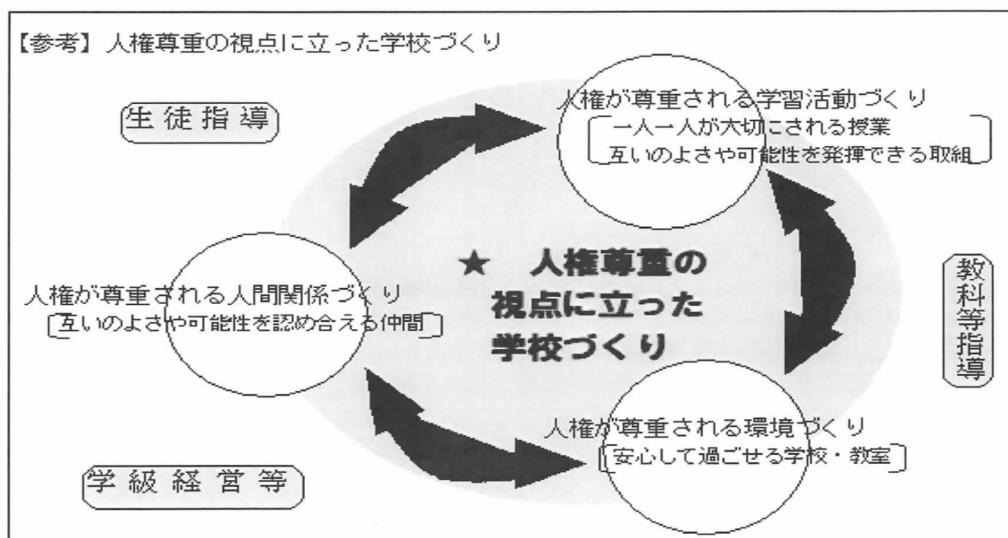
### Ⅰ 教育方針

本県及び本町の教育方針・努力目標に基づき、校訓「かしこく つよく 明るく」の理念を尊重し、地域の実情及び児童の実態を踏まえ、確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる実践力をもった児童を育成することに努める。そのために、全職員が教育者としての使命感と責任感を自覚し、英知を結集し、協力して本校教育の充実・発展に努め、保護者や地域に信頼される学校を創造する。さらに、保護者、地域社会と連携・協力し、共に育てていく中で、南小学校で学ぶ喜びを共感し、学校教育目標「未来を拓く心豊かな南っ子」の育成を目指していく。

今年度は、県教育委員会の研究指定「人権教育」の2年目（最終年度）となる。学校教育目標「未来を拓く心豊かな南っ子」の育成を目的とするなら、人権教育の研究と実践はそのための取組である。人権が尊重される様々な取組が子どもと教職員一人一人に浸透し、さらにそれが日常の姿となったとき、誰もが安心して学び、自己実現と自らの成長を実感できる空間となる。そのような学校ならば、子どもは喜んで登校するはずである。そんな学校を「明日も行きたくなる学校」と定義したい。

最後に、この経営方針の土台として4月1日に宣言したことを改めてここに明記します。「私は、全身全霊で先生方のために仕事をします。ですから、先生方は安心して、かつ、全身全霊で子どもに向かい合ってください。」

一緒に「明日も行きたくなる学校」を創っていきましょう。



文部科学省 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」より

## 2 校 訓

かしこく つよく 明るく

## 3 学校教育目標

「未来を拓く 心豊かな南っ子」

(1) 「めざす子供像」と、その実現のために力を入れること

### ○ 認め合う 明るい 子供（徳育）

- ・ 互いの良さに気づき、励まし合い、助け合うことのできる子供
- ・ やさしい心を持ち、他人の痛みを感じることができ子供
- ・ 礼儀正しく、節度があり、感謝することができ子供

〈数値目標〉 いじめ未解決ゼロ、不登校ゼロ

- ・ すべての教育活動の根幹に「人権尊重の精神に立つこと」を据える。
- ・ 特別の教科「道徳」を重点とし、全教育活動を通じた心の教育を推進する。
- ・ 友だちと自分との違いを認めながら、友だちの良さに気付かせる。
- ・ 係や当番の仕事などでは、自分たちで決める機会を増やし、友だちと助け合い、高め合わせる。
- ・ 正しい言葉づかいをし、気持ちの良い挨拶・返事ができるように指導する。
- ・ いじめを絶対に許さない。
- ・ 「ならぬことはならぬ」といった毅然とした指導を行う。
- ・ 感謝の心を持って行動させる。

### ○ 考える かしこい 子供（知育）

『人権教育の充実が学力向上につながる』を合言葉に・・・

- ・ 他の人の思いや考えをよく聞き、自分を磨こうとする子供
- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けた子供
- ・ 目標を持って、主体的に学習に取り組む子供

〈数値目標〉 ・ 標準学力テストの「目標値」

・ 図書の貸し出し冊数の増加（昨年度の同学年）

- ・ 友達と意見を交わし合い、学びを深めようとする態度を養う。
- ・ 自分の力で考え、よく聞き、表現しようとする態度を養う。
- ・ 課題をつかみ、進んで解決しようとする態度を養う。
- ・ 振り返りの言語化（文章化）を徹底する。
- ・ 家庭学習の習慣化を図る。
- ・ ICTの活用と具体物活用のバランスを図る。
- ・ 読書に親しませる。

○ やりぬく つよい 子供（体育）

- ・ 基本的な生活習慣を身に付け、規則正しく健康な生活のできる子供
- ・ 自分のめあてを持って、ねばり強く最後までやり遂げる子供
- ・ 困難や逆境に負けず、力強く生活することのできる子供

〈数値目標〉 スポーツテストの向上を図る（前年度を上回る。）

う歯治療率の向上（前年度を上回る。）

- ・ 早寝、早起き、朝ご飯を徹底させる。
- ・ 成長に必要な、困難に耐える力を身に付ける。
- ・ 外遊びを奨励する。
- ・ 換気、手洗い、うがいを徹底する。
- ・ 歯磨き指導を徹底する。
- ・ 交通安全指導を徹底する。

(2) めざす学校像と、その実現のために行うこと

○ 子供にとって、明日も行きたくなる学校

- ・ 子供たち自身が成長を感じられる学校
- ・ 友達がいて楽しいと感じられる学校
- ・ 先生が大好き、先生みたいになりたいと憧れる学校

- ・ 「わかる授業」に努める。
- ・ 「安心・安全な学校」にする。

○ 職員にとって、明日も行きたくなる学校

- ・ 職員自身が全力で教育に打ち込める学校
- ・ 「この学校に勤めて良かった」と思える学校

- ・ 資質向上への道筋を付ける。
- ・ 自分の能力が学校経営に貢献しているという実感できる。
- ・ 一人職への配慮を忘れない。
- ・ 学級や学年、分掌の垣根を越えて連携、情報共有。

○ 保護者・地域住民が立ち寄りたくなる学校

- ・ 子供が学校を大好きだと思っている学校
- ・ 保護者の相談に誠実に向き合っている学校
- ・ より良い教育を通してより良い社会をつくろうとする学校

- ・ 問題行動には即時対応する。（スピード感をもって）
- ・ 良いことほど、保護者に報告する。
- ・ 学校評価の結果に、誠実に向き合う。

### (3) めざす教職員像

- 子供と共に行動し、寄り添う教職員
  - ・ 子供の成長を信じ、深い愛情を注ぐ教職員  
「あなたはきっとできるようになる」「あなたはきっと解けるようになる」  
「あなたはきっと・・・」周りの誰もがあきらめても、私(教師)は信じてる。  
この言葉を言い続ける教師
  - ・ 何事にも自ら積極的に動き、取り組む教職員
  - ・ 毅然とした態度で信念を持って指導にあたる教職員
- 子供と共に学ぶ教職員
  - ・ 個々の子供の課題を把握し、解決に導く教職員
  - ・ 分かる授業をめざし、常に自己研鑽に励む教職員
  - ・ 教えるプロとしての自覚を持った教職員
- 保護者・地域と連携する教職員
  - ・ 子供とともに歩む姿を通して、保護者に信頼される教職員
  - ・ 地域の「ひと・こと・もの」を活かし、教育活動を活性化できる教職員
  - ・ 教育公務員としての自覚と責任のある教職員

### 5 教職員・児童の事故根絶に向けて

- 問題となる事象や事故発生の可能性を予見する力
  - ・ 子どもの変化、同僚の変化に気付く
- 報告・連絡・相談は細大漏らさず。

### 6 この仕事に誇りを

『3人のレンガ職人』※イソップ寓話より

中世のとあるヨーロッパの町、旅人が歩いていると、汗をたらたらと流しながら、重たいレンガを運んでは積み、運んでは積みを繰り返してる3人のレンガ職人に出会いました。

そこで旅人は「何をしているのですか？」と尋ねました。

すると、3人のレンガ職人は、次のように答えました。

一人目は、「そんなこと見ればわかるだろ。親方の命令で『レンガ』を積んでるんだよ。暑くて大変だからもういい加減こりごりだよ」と。

二人目は、「レンガを積んで『壁』を作ってるんだ。この仕事は大変だけど金(カネ)がいいからやってるのさ。」と

三人目は、「レンガを積んで、後世に残る『大聖堂』を造ってるんだ。こんな仕事に就けてとても光栄だよ」と。

私たちの仕事は、このレンガ職人のように、ただひたすら重いレンガを積むような、地道な仕事なのだと思います。時には、積んだレンガがもろくも崩れることもあります。しかし、私たちが創っているのは、大聖堂よりもはるかに価値がある命ある一人の子どもでもあり、その子の人生です。こんな価値ある仕事に就いている幸せと誇りを、日々心に持ち続けていただきたいと願っています。